

# 彫刻の制作を通し、現代美術における 立体表現の可能性を探る

造形短期大学部  
造形芸術学科  
教授

小田部 黄太



## 研究シーズの紹介

主に金属彫刻の制作を通し、以下に述べることを明らかにしてゆくことを研究の目的としている。彫刻とは存在していることがその本質的な特性であると考えている。したがって最も大きなテーマは存在そのものをどうとらえ、表現するかということである。つまり、存在「そこにあること」とは何かということである。

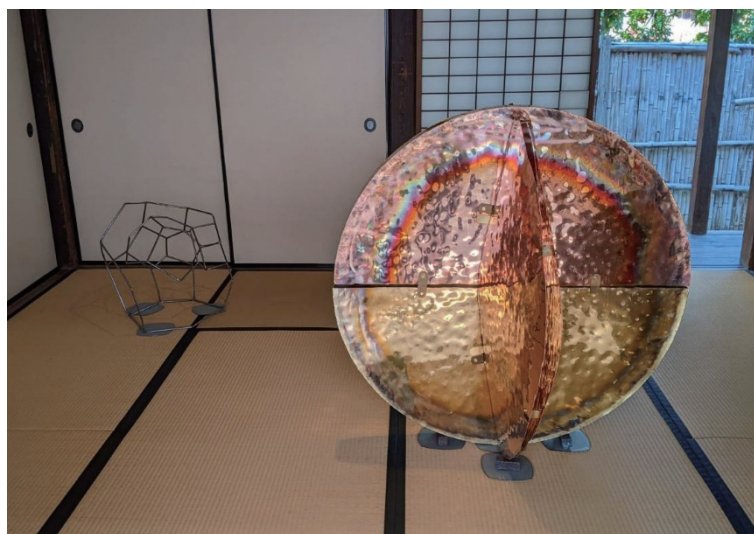
ここ数年は、人（あるいは鑑賞者）にとって存在とは「人が認知すること」により存在になる、と考えられるので、物理的な存在と人が認知する存在の「ズレ」を手掛かりに、そこにあるものを捉えることを試みている。

研究の性格から複数年にわたっての継続的な研究である。



### 金属加工・溶接

- 金属加工に40年以上にわたり取り組んでおり、溶接・加工技術には精通している。
- 鉄、銅、真鍮の加工を通し、作品制作・研究に取り組んでいる。



関係性について 2025No.7

「アートフェス大川～エンジョイ町並み美術館～」  
(大川市旧吉原家他) 令和6年4月～5月

## 期待される活用シーン

- 現代建築の造形的、文化的取り組みの具現化



建築と一体的に抽象彫刻やモニュメント、オブジェ等を展示することで文化的価値が生まれる



- 企業や自治体の文化的なイメージを広げ、ポジティブに作用を及ぼす。



企業・自治体等のロビー等に抽象彫刻やモニュメントを設置することで、文化的価値が生まれる



### その他の研究テーマ

- 彫刻・立体造形に関する教育全般についての研究
- 彫刻・立体造形に関する社会との関係性についての研究